



〈参考資料6〉古文書修復の技術にふれる(第2回「まちづくり地域歴史遺産活用講座」試行プログラム(2011.2.19-20実施)テキスト)

平田, 雅一

(Citation)

地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備, 特別研究プロジェクト(平成22年度事業報告書):98-101

(Issue Date)

2011-03-31

(Resource Type)

research report

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81003405>



古書修復前



水害によりページが固着している文書



水害により内部にカビ・破損が激しい文書



虫食いによる被害が激しい文書

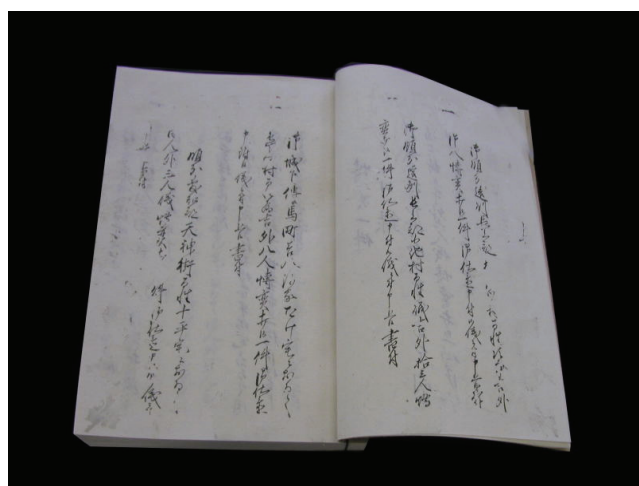
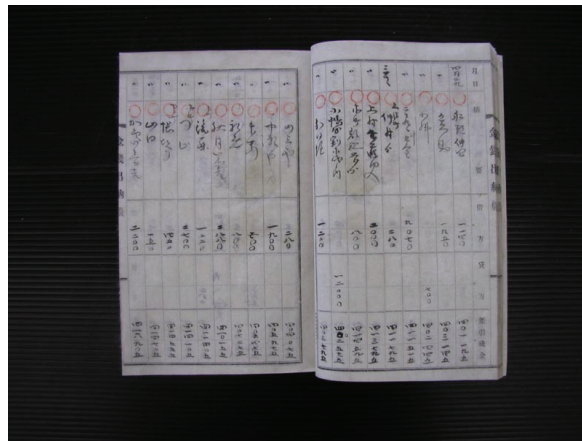
自然災害や、虫損、取扱い時における破損や保管状況による劣化など、様々な要因で貴重な歴史資料は日々劣化が進行しています。そこで、何らかの対策を講じなければ、劣化が進みやがては、失われてしまう危険にさらされています。

裏打ち修復



資料の裏面全体に和紙を貼り付け(裏打ち)して修復する古来からの技法です。劣化・損傷した資料を修復・補強する一般的な修復方法のひとつですが、片面を裏打ち紙で覆ってしまうために両面に書かれた資料の場合、片面が読めなくなって

古書修復後



様々な要因で破損・劣化が進んだ歴史資料も適切な保存・修復処置を行うことにより劣化の進行を防ぎ、後世に伝える保存を可能にします。また修復することにより資料としての活用ができるようになります。

※写真のものは漉きはめ技法による修復を行っています。

漉きはめ修復



資料に資料と同質の紙の原料を流し込み、虫食いや欠損部分にのみ新たな紙を形成して直す、新しい修復技法です。

資料の状態が酷いものほど効果的です。欠損部にのみ新たな紙を形成するので、厚みが変わったり、両面書き資料の片面が見

中性紙保存ケース

貴重な歴史資料を後世に残していくためには適切な保存・修復処置とともに資料を保存・保管する環境もまた重要です。古来からの桐箱や帙などの他にも酸性劣化を防ぐために中性紙でつくられた保存ケースも使用されています。

中性紙保存ケースは資料の形状・大きさ・用途により様々な形のものがあります。

